

夢のつづき

校長 武井 正明

文部科学大臣杯第 16 回全日本少年春季軟式野球大会 ENEOS トーナメント。それは全国 56 チームが優勝旗を賭けて戦う夢の舞台。吉中ナインは強豪相手に堂々と戦った。

倉敷運動公園野球場。春風が暖かい、というか暑い。全 8 会場 26 日までの長丁場だ。私も早朝我慢できず、チームのホテルに合流し、一緒に会場に向かった。

球場には保護者会の皆さんが大挙して揃い、口々に「ありがとうございます」と仰ってくださる。とんでもない、お礼を言うのは私の方。選手達が頑張って全国大会、しかも初めて訪れる岡山県倉敷市で、出場校校長として応援できる…こんな名誉はない。

ふと視線をスタンドに向けると小野先生に酷似した人物がいた。それにしてもそっくりだなあ…隣に視線を移すと？北山先生にも似た人物が…。なんと新潟から 4 人も先生方が応援に来てくれた。明日は離任式だぞ？驚きすぎて、嬉しすぎて、目が点になった。

こうなるともう、岡山なのに地元新潟で試合をやっているような心地がしてくる。

吉中の対戦相手は、三重代表を 7 対 4 で破って勝ち上がってきた地元岡山の強豪御南中。細かいプレーも徹底的に鍛え抜かれた試合巧者。公立校なのに専用のバスを持つ。監督は風格十分。しかし、久保出・大山両顧問は試合前、監督と対等に話をしていた。選手もベンチも平常心。そこが吉中の強さだ。気後れするところがない。

スタンドには濃紺の旗が気持ちよく揺れている。試合前の円陣で雄叫びが上がる。シートノックの動きも軽快、準備万端、いよいよ待ちに待ったゲームが始まった。

心配した立ち上がり、無難に 0 点で凌ぐ。裏の攻撃、初球から積極的にスイングする。そして 2 回裏、待望の先取点と初球スクイズをきっちり決めて 2 点目も入る。すぐ 3 回表に 1 点を失い、4 回終了でグラウンド整備。直後、慎重に入った後半戦のアタマ 5 回表に追いつかれるが、すぐ裏チャンスを逃さず、勝負所で見事なタイムリーが出た。そして 6, 7 回を締めて見事 3 - 2 で会心の勝利。吉中の強さを実感した試合だった。

残念ながら、私が観戦できなかった午後の 3 回戦で、東京代表の強豪、上一色中（25 日現在ベスト 4）に 1 対 7 と苦杯をなめた。日本一を目標に掲げていた吉中ナインにとって、16 強という結果は達成感ではなく、悔しさの方が大きいだろう。でも私は、期待にそぐわぬ彼らの躍動する姿を、目に焼き付けることができた。一生の宝物だ。私は吉中野球部を、心から誇りに思う。

開催地倉敷が生んだ野球人、星野仙一監督の座右の銘は「夢」

君たちの夢はまだ始まったばかりだ。その夢は、これからもずっと続く。